

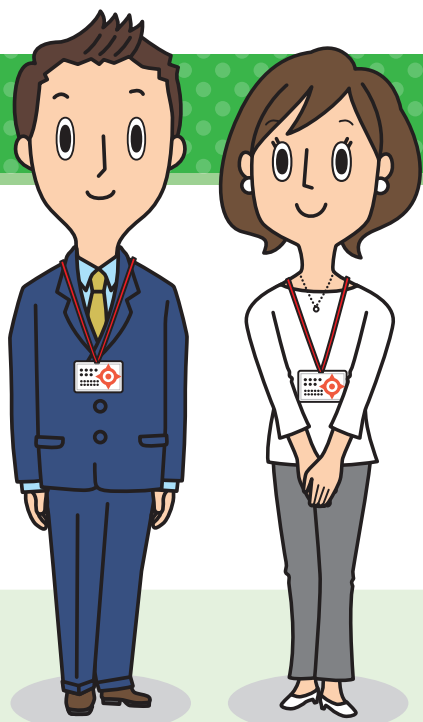
にっぽんぎんこう

おしえて! 日本銀行

日本銀行ガイドブック



日本銀行へようこそ!



こんにちは! 日本銀行へようこそ!
日本銀行ってどんな銀行なのか、
これから私たち「にちぎんスタッフ」が
説明していきますね。

日本銀行が、お札と関わりがあるのは知っていたけど、そのほかにも、私たちの暮らしにいろんなところで関わりがありそうですね。



日本銀行は普通の銀行と何が違うのですか?

お札を発行できるのは、日本銀行だけです。
また、日本銀行は預金を受け入れたり、お金を貸したりする点では、普通の銀行と同じですが、一般の個人や会社と取引しない点で異なります。

発券銀行

日本銀行は、日本でただ一つ、お札を発行できる銀行（「発券銀行」）です。お札にはすべて「日本銀行券」と印刷されています。日本銀行は、お札の発行から、使えなくなったお札を処分するまでの「お札の一生」を管理しています。

銀行の銀行

私たちが銀行にお金を預けるのと同じように、銀行は日本銀行にお金を預けています。日本銀行は銀行にお金を貸し出ししたりもします。銀行同士のお金のやりとりは、日本銀行にある預金口座を通して行われます。

政府の銀行

日本銀行は、国のお金の出し入れを扱っています。国は日本銀行に預金口座をもっており、税金などがこの口座に集まってきます。道路の建設代金や年金はこの口座から支払われます。国の借金である国債に関するお金のやりとりも、日本銀行にある口座で行われます。

日本銀行はどのような仕事をしているのですか?

ひとことで言えば、「みんなが安心してお金を使えるようにする」ことです。そのために、大きく分けて3つの役割があります。

1. お札の発行

皆さんの財布の中のお札をよく見てください。「日本銀行券」と書いてありますね。お札のことを正式には「日本銀行券」といいます。お札は日本銀行の窓口から世の中に送りだされているのです（これを「日本銀行券の発行」といいます）。

日本銀行は、現在、一万円札、五千円札、二千円札、千円札の4種類のお札を発行しています。日本銀行は、皆さんがいつでも安心してお札を使えるように、色々な努力をしています。

2. 物価の安定

みなさんがお金を安心して使えるようにするには、その価値（モノの値段）が安定していること（物価の安定）が大事です。日本銀行は、物価や経済の動きをしっかりと調べたうえで、お金の価値を安定させるよう努めています。

3. 金融システムの安定

銀行は、みなさんのお金を預かったり、遠く離れた人にお金を送ったり、あるいは必要なお金を貸してくれたりします。このように銀行を通じてお金が血液のように皆さんの暮らしの中に流れる仕組み（金融システム）を安定させることも、日本銀行の大事な役割です。

もし、二セ札が出回ったら…?

もし、モノの値段が上がり続けたとしたら…?

もし、モノの値段が下がり続けたとしたら…?

えっ! 200円?
この前は100円だったのに…

どうしよう。
今日お金がおろせないと、
買い物に行けないわ…

もし、急に銀行が
利用できなくなったら…?



コラム 日本銀行はいつ頃、なぜ設立されたのですか?

1877年(明治10年)に起こった西南戦争の費用を調達するために、当時の明治政府は、たくさんのお札を発行しました。しかし、たくさん発行しすぎた結果、お金の価値が大幅に下がってしまいました。そこで、お金の価値を守るために、わが国の中央銀行として1882年(明治15年)に日本銀行が設立されました。

本店の本館は、1896年(明治29年)に完成したものです。設計したのは、東京駅の設計も手がけた辰野金吾博士です。1974年(昭和49年)には国の重要文化財に指定されました。



お札の発行

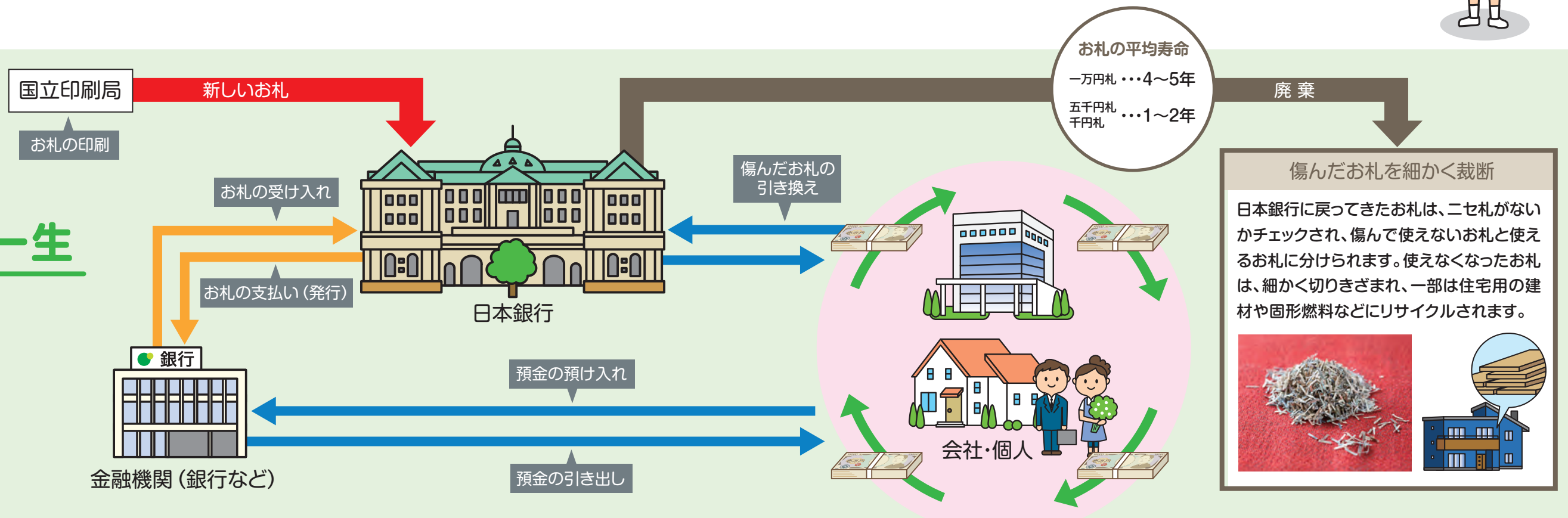


お札をよく見てみると「日本銀行券」と書いてありますね。
そう、お札は日本銀行が発行しているんです。
日本銀行は、皆さんが日本中のどこでも、お札を便利に
安心して使えるようにするために努力しています。

普段はあまり意識していないけど、日々、私たちが
安心して、きれいなお札を使えるのは、日本銀行
が様々な努力をしているからなんですね。

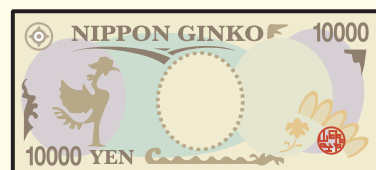


お札の一生



コラム 日本銀行の読み方は「にほんぎんこう」それとも「にっぽんぎんこう」?

お札を隅々までよくみて下さい。裏面に、ローマ字で「NIPPON GINKO」と書いてありますね。そう、私たちは、「にっぽんぎんこう」と呼ぶようにしています。



コラム ニセ札が出回るとどうなるのでしょうか?

ニセ札が出回るとお札を安心して使えなくなり、お札はみんなに信頼されなくなってしまう。そうならないように、日本銀行は、日本銀行に戻ってきたお札を1枚1枚しっかりチェック。お札には、偽造されないように、工夫がこらされています。ここでは2004年11月一万円札に取り入れられている偽造防止技術のいくつかを紹介します。

●角度を変えると画像の色や模様が変わります。



●光に透かすと、すき入れられた3本の縦棒が見えます。



●お札を傾けると、表面左裏面右上に「NIPPON」が見えます。

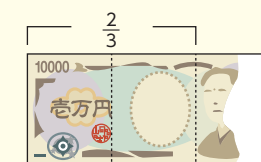


●お札には、このほかにもいろいろな偽造防止技術が盛り込まれています。詳しくは、日本銀行のホームページを見て下さい。

コラム お札が燃えたり、破れたりした時はどうしたらいいの?

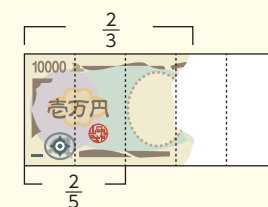
燃えたり破れたりしたお札でも、表・裏両面があり、一定以上の面積が残っていればきれいなものと引き換えることができます。燃えて灰になっても、その灰がお札だと確認できれば、その部分も面積に含めた上で、引き換えることができます。

面積が2/3以上の場合



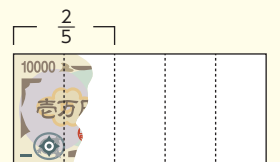
全額引換可能

面積が2/5以上2/3未満の場合



半額引換可能

面積が2/5未満の場合



失効
(お札としての価値がない)

物価の安定 Part 1



お店で売っているモノの値段（物価）が、ずっと上がり続けたり、逆にずっと下がり続けたら、私たちの暮らしをおびやかします。日本銀行は、そうしたことにならないように金融政策を通じて物価の安定に努めています。

インフレの場合



景気がよくなり過ぎて、モノの売り買いやお金の動きが激しくなると、モノの値段（物価）が上がります。物価が上がると、お店などの売上げが伸びて、良いことのようにも思えます。でも、これまでと同じ値段で買えるものが減って、持っているお金の価値が減ってしまうことになります。このように物価が上がり続けることをインフレーション（インフレ）といいます。



コラム インフレの例 …ドイツの超インフレ

恐ろしいインフレの例として、第一次世界大戦後にドイツでおきた激しいインフレがあります。当時のドイツは借金をするために国債（国の借用証書）を大量に発行し、これを中央銀行が買い取りました。その結果、膨大な量のお札が発行され、「天文学的」な勢いで物価が上がってしまいました。例えばパンを買うために荷車1台分のお札が必要になったりしたのです。



物価が安定しているかどうかは、私たちのお小遣いのやりくりにも影響するのですね。日本銀行の役割はとても重要ですね。



デフレの場合



インフレとは逆に、モノの値段（物価）が下がると、モノが安く買えるので良いようにも思えます。でも、モノを作ったり売ったりしている人はどうなるでしょうか。儲けがなくなって、給料も減って、お店が潰れるかもしれません。こうした状況をデフレーション（デフレ）といいます。



コラム デフレの例 …アメリカの大恐慌

典型的なデフレの例としては、アメリカで1929年の株価暴落をきっかけに生じた大恐慌があります。当時のアメリカでは、消費や生産などの経済活動が大幅に落ち込み、物価も大きく下がりました。その結果、町には失業者があふれ、ひどい時は、働きたいと思っている人のうち、およそ4人に1人が仕事のない状態でした。



物価の安定 Part 2



日本銀行は、物価や経済の動きをしっかりと調べたうえで、物価を安定させるよう努めています。景気が悪くて、物価が下がっている時には、お金を貸し借りする時の値段である金利を引き下げて、お金の流れを活発にします。逆に、景気が良くて、物価が上がっている時には、金利を引き上げて、お金の流れを抑えるようにします。これを金融政策と言います。

世の中の会社が銀行からお金を借りる時の金利や、私たちが銀行にお金を預ける時の金利は、実は、日本銀行が行う金融政策によって左右されているのですね。



コラム 金融政策はどのようにして決まるの？

金融政策は、日本銀行の「政策委員会」というところで話し合われて決められます。この会議を「金融政策決定会合」と呼んでいます。

「金融政策決定会合」には、総裁（1人）、副総裁（2人）、審議委員（6人）と呼ばれる9人のメンバーが出席し、多数決で決めています。決まったことは、会議の後すぐに公表され、総裁が記者会見で説明しています。また、会議の場でどんな話し合いがなされたのかについても、一定の期間が経った後に公表しています。



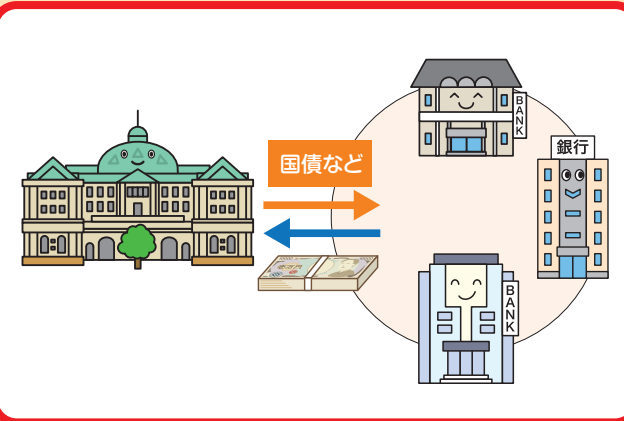
インフレの時

銀行などの金融機関が持っている**お金の量を減らし**、お金を貸し借りするときの**金利が上がる**ようにします。お金が借りにくくなり、会社やお店は生産や投資をおさえるので、物価が落ち着いてきます。

モノの値段（物価）が上がる



銀行などの金融機関が持っているお金の量を減らす



金利が上がる

お金を借りにくくなる



経済活動が落ちつき、物価も落ちつく

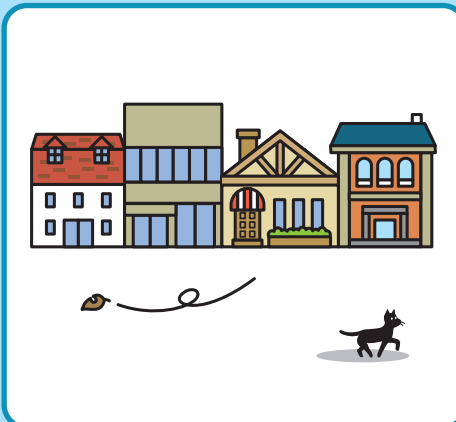


日本銀行が民間銀行との間で国債を売り買いし、金利の水準を調整することを「オペレーション」などしてお金を出し入れし、（公開市場操作）といいます。

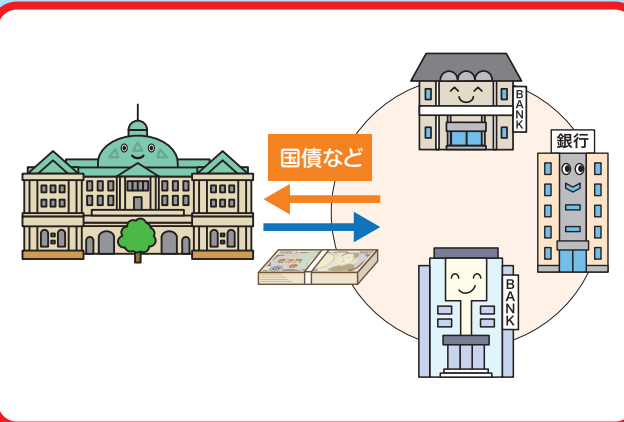
デフレの時

銀行などの金融機関が持っている**お金の量を増やし**、お金を貸し借りするときの**金利が下がる**ようにします。会社やお店がお金を借りやすくなって生産や投資が活発になると、物を買う人も増えて、物価も下がりやすくなります。

モノの値段（物価）が下がる



銀行などの金融機関が持っているお金の量を増やす



金利が下がる

お金を借りやすくなる



経済活動が活発になり、物価も下がりやすくなる

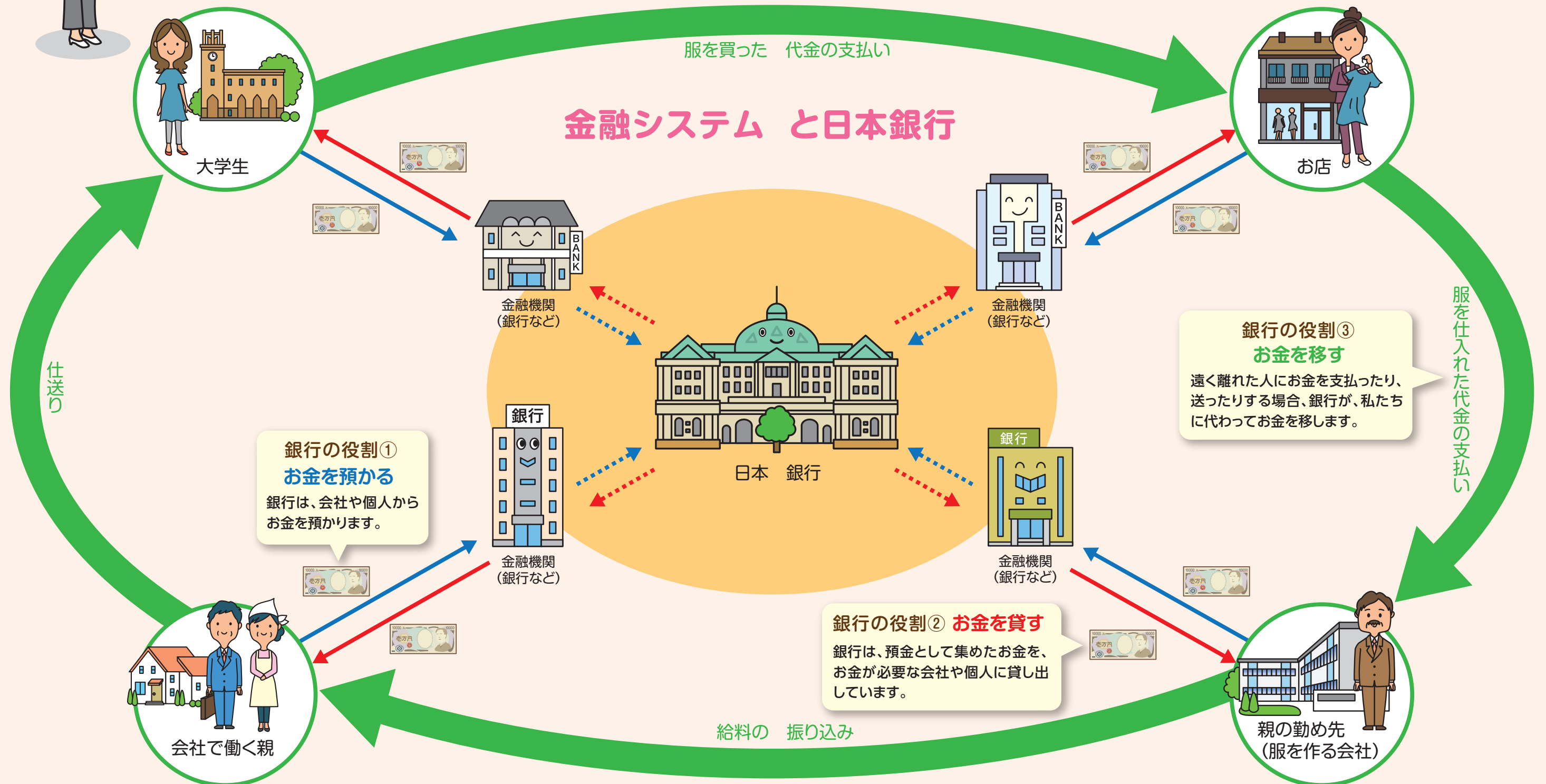


金融システムの安定 Part 1

銀行はみなさんのお金を預かるほか、遠く離れた人にお金を支払ったり、送ったりする時に、私たちに代わって移してくれます。また、預金集めたお金を、会社や個人に対して貸したりもします。このような金融機関を通じてお金が血液のようにみなさんの暮らしの中に流れる仕組みを金融システムと言います。日本銀行は、金融システムを安定させる役割を担っています。

普段は、特に意識せずに、銀行に預けておいたお金を引き出したり、月々の電気料金などを銀行に頼んで支払ってもらったりしているけど、実は、これらは金融システムが安定しているからできることなんですね。

金融システム と日本銀行



金融システムの安定

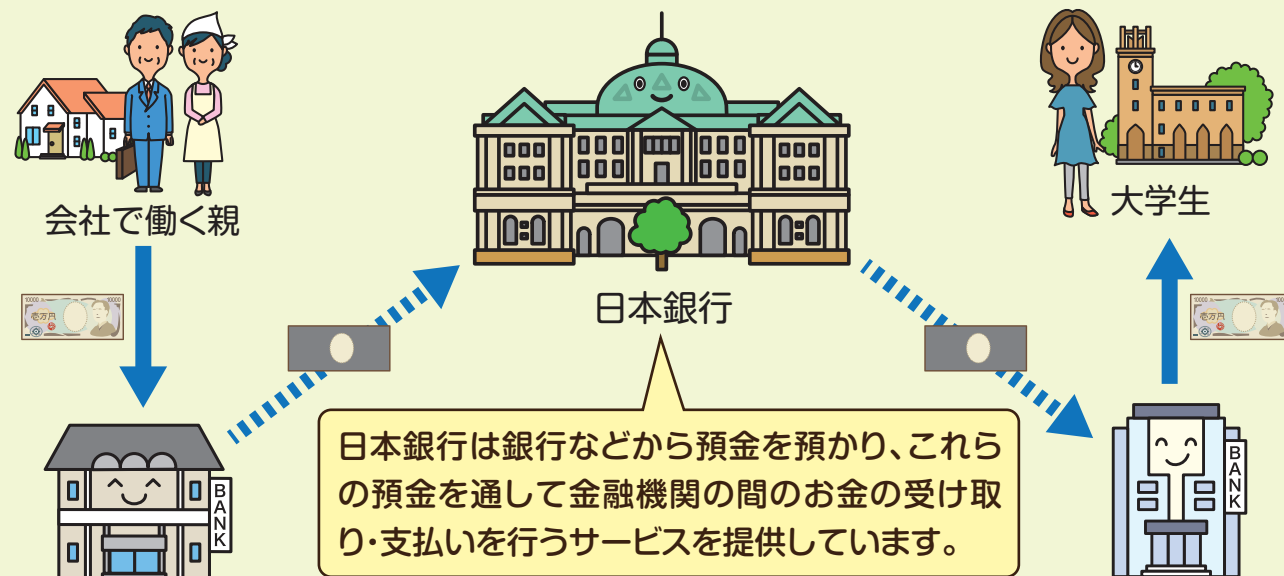
Part 2

日本銀行は、金融システムが安定的に働くよう、銀行などの金融機関間のお金のやり取りをとりもっています。また、みなさして、急にATMが使えなくなったりすることのないよう、日本チェックするようにしています。また、万が一、どこかの銀行で支払いに悪い影響を及ぼすような危険が予想される場合には、そうした場合もあります。

機関から預金を預かり、これを通じてんがお金を預けていた銀行が破たん銀行は、普段から、銀行の経営状態をいができなくなり、それがほかの銀行事態を防ぐために特別な貸出を行う

日本銀行は、金融システムが不安定にならないよう、普段から予防に努めてくれているのですね。また、万が一の時に、金融システムの安定のための「ゴールキーパー」になってくれるんだと分かり、とても心強いです。

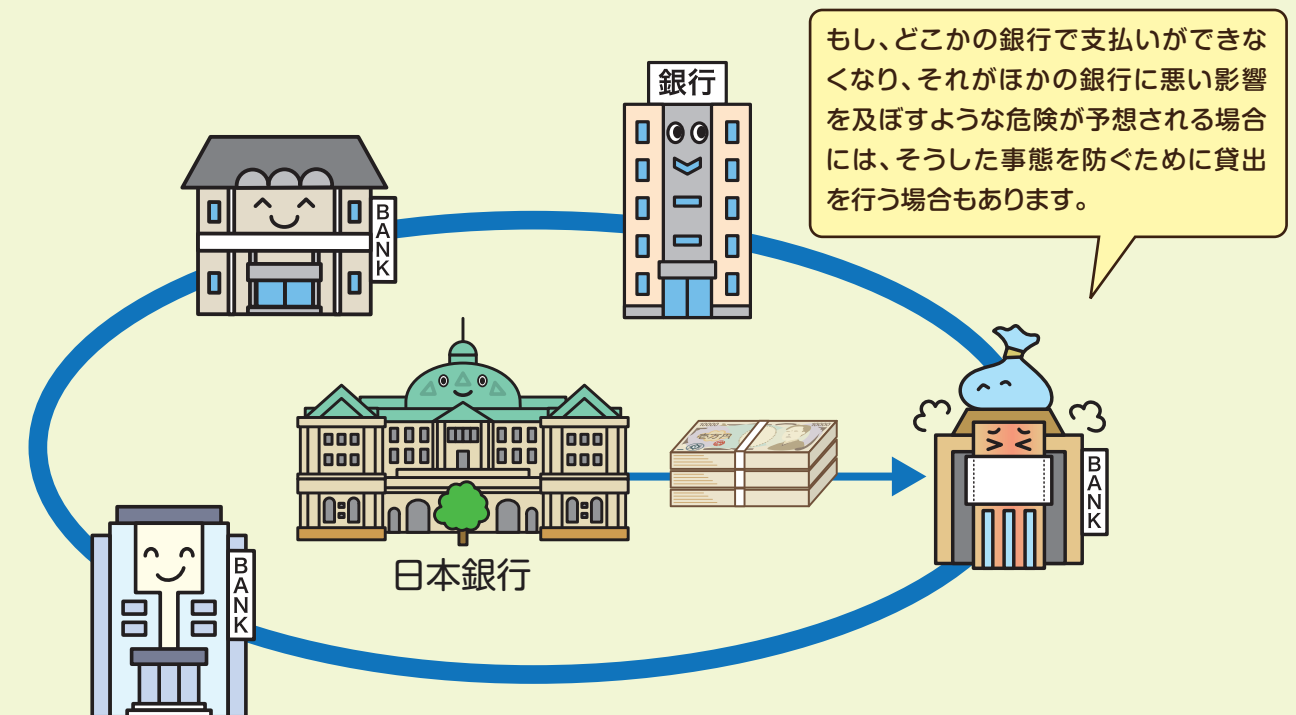
金融機関間のお金のやり取りをとりもつ



金融機関の経営状態をチェックする



お金の流れを守る



コラム 東日本大震災時の対応

日本銀行は、大災害が発生した場合にも、お金がいつも通り使えるように、また、お金の流れが滞らないようにするために、これまで説明してきたお札の発行、物価の安定、金融システムの安定といった仕事などを通じて、様々な対応をとるようにしています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災の後に、被災地の方々をはじめ、国民の皆さんが安心してお金を使えるようにするために、いろいろな面で力を尽くしました。例えば被災地にある支店などでは、津波や火災の被害にあってしまったたくさんのお札の引き換えを行いました。



インフォメーション

日本銀行からのお知らせ

ホームページ <http://www.boj.or.jp/>

日本銀行のことや、金融・お金に関するさまざまな情報をホームページでご覧頂けます。



●日本銀行を「知る」「楽しむ」

日本銀行のことを皆さんに知っていただくためのページです。ビデオやキッズコーナーもありますので、みてくださいね！

本店見学案内

重要文化財に指定されている本館(旧地下金庫エリア、旧営業場、史料展示室)および新館(1階営業場)等をご覧になれます(無料)。ご希望の方は、見学希望日の3カ月前から1週間前までに電話でご予約ください。

【見学日】 月～金(除く休日、年末年始(12/29～1/4))

◆連絡先 = 情報サービス局 ☎ 03-3277-2815 (9:30～16:30)



貨幣博物館

古今東西の重要な貨幣を約3,500点展示しています。また、日本の貨幣史を分かりやすくご覧いただけます(無料)。

【開館時間】9:30～16:30(入館は16:00まで)

【休館日】月曜日、休日(ただし、土曜日・日曜日と重なる場合は開館)、年末年始(12/29～1/4)

◆連絡先 = 金融研究所 ☎ 03-3277-3037

詳しくは貨幣博物館ホームページ(<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>)をご覧ください。

支店などの所在地

- 本店
- 支店
- 事務所



● 海外事務所



●支店

釧路	(0154)24-8100
札幌	(011)241-5231
函館	(0138)27-1161
青森	(017)734-2151
秋田	(018)824-7800
仙台	(022)214-3111
福島	(024)521-6363
前橋	(027)225-1111
横浜	(045)661-8111
新潟	(025)222-3101
金沢	(076)223-9541
甲府	(055)227-2411
松本	(0263)34-3500
静岡	(054)273-4100
名古屋	(052)222-2000
京都	(075)212-5151
大阪	(06)6202-1111
神戸	(078)334-1111
岡山	(086)227-5111
広島	(082)227-4100
松江	(0852)32-1500
下関	(083)233-3111
高松	(087)825-1111
松山	(089)933-2211
高知	(088)822-0001
北九州	(093)541-9111
福岡	(092)725-5511
大分	(097)533-9110
長崎	(095)820-6111
熊本	(096)359-9501
鹿児島	(099)259-3220
那覇	(098)869-0111

●事務所

水戸	(029)224-2734
帯広	(0155)25-5252
旭川	(0166)23-3181
盛岡	(019)624-3622
山形	(023)622-4004
富山	(076)424-4471
福井	(0776)22-4495
長野	(026)227-1296
鳥取	(0857)22-2194
徳島	(088)622-3126
佐賀	(0952)23-8165
宮崎	(0985)23-6241



日本銀行

【本店】

〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1
03(3279)1111

おしえて！日本銀行

編集・発行 日本銀行 情報サービス局 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1 電話 03-3279-1111

※本パンフレットの内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行情報サービス局までご相談ください。
転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。